農村祭祀空間の場所性と地域住民との関係性に関する研究

～淡路島北淡町の事例から～

A study on the characteristic of the religion-related places for rituals and their relation
with rural people

-A case study of Hokudan-cho, Awajishima-

新田 佳代* 林 まゆみ**

Kayo Nitta * Mayumi Hayashi**

(*豊岡市役所 コウノトリ推進共生課 **兵庫県立姫路工業大学・淡路景観園芸学校)

(*Toyooka Municipal Government **Himeji Institute of technology /Alpha)

I はじめに

日本の耕地面積や農家人口の4割をしめる中山間地域では、戦後の経済成長と生活構造の変化の過程において過疎化・高齢化が進行し、伝統文化・自然環境などの変容・消失が深刻な問題となっている。しかし今も自助的な社会運営の仕組みを維持しており、そこから学ぶことは多い。特に、村落の住民が複合的な関わりを持つ共同空間として存続・機能している祭祀空間が注目され(加藤1999)、農村におけるコミュニティ意識の再認識に新たな展望が導き出せると思われた。祭祀に参加する体験を通して集団を統合・維持する役割があることも指摘された(森田1990)。

本研究では、江戸期からの伝統的な祭祀空間を数多く保持し、かつ阪神・淡路大震災の震源地となったことで高齢化や過疎化がさらに進み、地域景観やコミュニティの存続形態が大きく変わろうとしている淡路島津名郡北淡町を調査対象地とした。村落における祭祀空間の場所性とそこに関わる村落住民との関係性を明らかにすることを目的とした。祭祀空間を都市空間や集落空間を構成する要素として捉えた既往の研究は、街路における地蔵配置に関する考察(竹内ら1999)、空間構成や形態に関する考察(姜ら1999)、祭祀圏やコミュニティに関する考察(関ら1999, 2000)などがある。これらで取り上げられた祭祀空間は単一かつ同種類に限定されており、祭祀空間にどのように人が関わっているかについての具体的な記述はない。本論で示す新しい視点は、一地域にみられる

多種類の祭祀空間の景観要素や立地特性と人々の関わり方から、祭祀空間の場所性や人との関係性を分析し、村落における祭祀空間と人々との普遍的な関係性を導き出すことである。

II 研究の方法

対象とする北淡町は海に面した帯状の平地の少ない町である。淡路地域の中でも特に1995年の兵庫県南部地震により決定的な打撃を受けた。平成13年5月現在での総人口は約1万700人、平均高齢化率は30%を超え、6村落で35%を超える。村落の領域を整理すると、明治22年に町村制が施行される前の藩政村と現在の村とでは境界線はほとんど変わっていない。統合された村が3つ、新しくつくられた村が1つあるが、統合された村では現在も「浜」「里」という呼び方で村を二分した認識がされており、藩政村単位の領域意識が生きていると考えられる。新しい村は土砂採掘の跡地につくられたもので、祭祀空間は全くない。近世初頭に制度化されることによって、歴史的にも地理的にも社会的にも明確なまとまりを保持している25の藩政村の単位で研究を進めることとした。

次に実態調査により、祭祀空間(祭祀目的で足を運ぶ目標物がある場所のまとまりと定義づける)の呼称による①種類と数、②分布状況、③構成要素などを把握した。村落コミュニティとの関係から考察を行うことが目的であるので、広域的な檀家制をとる寺院や墓は含めないこととした。②は平成12年の都市計画地図にプロットした。

祭祀空間を踏査する中で、日常生活域（通常の生活・生産活動で往来する領域と定義づける）とは区別して認識される祭祀空間域（祭祀の目標物へ向かう際に通過する、通常の生活で往来する領域とは区別される領域と定義づける）にいくつかのパターンがあることが予想され、立地特性に関する重要な要素であると認識された。そこで日常生活域との境界を考慮しつつ、「④祭祀空間域の形態や広がり」を調査項目として設定した。

さらに聞き取り調査によって個々の祭り内容を把握し、⑤継続的に関わりを持つ住民とその関わり方、⑥どの範囲の住民が祭祀に参加するかについて整理した。また、それぞれの特性に応じてくくでそれらを概念化しネーミングを試みた。

聞き取り調査は元北淡町歴史民俗資料館館長をはじめ、各村の町内会長さんや任意に対応された地元の高齢の方々から広く行った。調査は2001年5月から2002年2月の間に行った。

III 調査の結果と考察

1. 村落ごとの祭祀空間の種類・数と分布

村落ごとに祭祀空間の呼称で整理した結果、荒神さん・愛宕さん・山ノ神さん・地ノ神さん・社日さん・不動さん・観音さん・阿弥陀さん・薬師さん・地藏さん・八幡神社・天王さん・権原さん・稻荷さん・えびすさん・金比羅さん・明神さん・御旅所・～神社など（以下の記述において「さん」「神社」は省略する）、238にのぼる多種多様な祭祀空間が存在していることが分かった。作成した分布地図から、ほぼ全村落（藩政村）に社日があること、海に面した密集市街地でえびす・金比羅・稻荷が共通して見られること、内陸山間部村落で天王や複数の荒神が見られる特徴のあることが分かった。そこで山間部の村落、海に面した村落、海に面した密集市街地集落に分けて表にまとめた（表-1）。

表-1 祭祀空間の種類と数

種類・数	愛宕	荒神	山ノ神	地ノ神	社日	不動	観音	阿弥陀	薬師	地藏	八幡	神社	天王	弁天	権現	稻荷	えびす	金比羅	明神	さん	御旅所	他	全体	
山間部	斗の内里	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3	10	
	育波里	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6	
	生田畑	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	10	
	生田田尻	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
	久野々	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	6	
	生田大坪	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	
	室津里	1	4	0	0	1	0	1	0	1	1	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	15	
	黒谷	1	6	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14	
	常磐	1	2	2	0	1	2	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	18
	小田	0	6	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11
	石田	1	3	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11
	仁井	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
海に面する	長島	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	10	
	舟木	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	8	
	浅野南	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	9	
	浅野神田	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	江崎	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	10	
	平林	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
	大川	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	4	
	轟木	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	8	
	墓の浦	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	12	
	室津浜	0	3	0	0	0	2	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	1	1	0	3	1	18	
	富島	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3	0	3	0	1	0	2	2	1	0	3	1	20	
	育波浜	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	7	
密集	斗の内浜	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	
	全体	12	36	8	2	21	10	14	4	12	19	4	19	6	4	6	6	7	6	9	13	4	16	238

2, 祭祀空間の構成要素から見た特徴

構成要素の項目を、しめ縄で仕切られた地面・巨大岩・自然石・石祠・石塔・石像・供花・鳥居・建築物の主な9項目にしばった(表-2)。

表-2 祭祀空間の構成要素

構成要素	荒神	山ノ神	地ノ神	不動	地蔵	阿彌陀	観音	八幡	天王	明神	金比羅	えびす	弁天	その他
地面	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
巨大岩	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
自然石	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石祠	18	2	1	6	0	1	0	0	0	5	3	0	1	0
石塔	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
石像	0	0	0	0	4	10	1	0	0	0	0	0	0	0
供花	0	0	0	0	0	6	15	9	4	3	0	0	0	0
鳥居	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
建築物	2	0	0	4	0	5	9	12	4	8	14	4	4	5

構成要素の分析の結果から、祭祀空間の場所特性を概念化した。山ノ神・地ノ神・荒神・社日は、小さな石祠や石塔などがあるのみで建築物がなく周辺の自然環境と一体となっていることから〈集落における配置や自然環境それ自体が重要な場所〉と位置づけた。特に荒神は巨大岩や場所そのものを構成要素とする顕著な特徴が見られ、より配置や自然環境が重要性を帯びていると思われることから〈神聖な場所〉と位置づけた。不動や地蔵では建築物が小規模で、供花と石像が屋外に共通して見られたので〈アピール性のある場所〉と位置づけた。また地蔵の一部と観音・阿弥陀・薬師は、建築物と供花が共通しており、屋内に具象的な仏像などを設置して共同の仏壇のように供花することから、仏教的信仰を背景とした〈親密な場所〉と位置づけた。様々な名称の〜神社や一部の〜さんでは鳥居と建築物が共通して見られ、伝統的な空間構成や建築様式による連続性があることから景観的に〈安定した場所〉と位置づけた。

3, 祭祀空間の形態から見た立地特性

祭祀空間へ向かう際に通過する領域の形態を、(ア)山・樹林型、(イ)水田の中に孤立して残っている小樹林型、(ウ)背後に山又は樹林のある敷地型、(エ)背後に山又は樹林のない敷地型、(オ)道路脇などにあり日常生活域との境目が明確でないもの、に分けてモデル化した。(図-1)。このモデルに沿って、祭祀空間の立地特性を分析した(表-3)。

(ア)は祭祀空間域の面積が大きく、日常生活域と距離があることから〈非日常的な場所〉である

図-1 祭祀空間域 平面図モデル

表-3 祭祀空間域の形態による立地特性

祭祀空間域	荒神	社日	山ノ神	地ノ神	不動	阿彌陀	観音	八幡	天王	明神	金比羅	えびす	弁天	山ノ神	その他	計
ア 山・樹林	8	10	3	3	5	9	4	2	0	1	1	0	1	0	0	54
イ 孤立小樹林	15	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
ウ 山あり敷地	0	2	1	2	7	0	2	4	3	3	2	3	0	0	1	33
エ 山なし敷地	0	3	2	0	6	0	0	2	1	1	7	2	3	5	2	45
オ 道路脇など	1	0	2	1	0	0	0	1	0	1	1	2	14	1	1	43
その他	12	4	2	1	1	3	0	0	0	0	3	4	2	1	1	44
合計	36	21	10	8	19	12	6	9	4	6	14	12	19	6	7	238

と位置づけた。これには愛宕・天王や一部の神社が該当した。(イ)は小樹林全体の領域周囲が結界のように明快であることから〈地形的に日常生活域と強く区別された場所〉であると位置づけた。荒神がこれに該当した。(ウ)は背後の樹林によって日常生活域からのアプローチが制限されるので、〈少し区別される場所〉であると位置づけた。八幡や明神が該当した。(エ)は祭祀空間域の面積が小さく、日常生活域からもアプローチしやすいことから〈親しみやすく身近な場所〉であると位置づけた。金比羅・えびすなどが該当した。(オ)は祭祀空間域がなく、特別な意識がなくとも接することから〈非常に日常的な場所〉と位置づけた。地蔵などが該当した。また社日・山ノ神・不動や〜神社は、祭祀空間域の形態に明確な共通性が見られず、非日常なものから身近なものまでばらつきがあった。

4, 祭祀空間への地域住民の関わり方

聞き取り調査から、祭祀空間への地域住民の関わり方は年齢/性別/立場/頻度/内容の5点から数パターンに分類できることが把握できた。そこで、(カ)中高年男性の当番役員が年1・2回形式的な祭

表-4 祭祀空間への住民の関わり方

	関わり方	愛宕 神社	山ノ 神	社日 不詣	阿彌陀 尊	薬師 尊	地蔵 尊	金比羅 尊	明神 尊	えびす 尊	天神 尊	八幡 尊	その他	計
カ	男性・役員 年1・2回	9	23	7	2	14	2	1	0	0	1	0	2	95
キ	男性役員 女性手伝 年1・2回	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	2	2	21
ク	当番・奉仕 毎日・月	0	0	0	0	5	11	4	8	3	9	1	2	50
ケ	男女 自主・随時	0	0	0	0	3	0	0	2	9	0	0	4	37
コ	老若男女 役員・自主 年1・2回	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	7	17
	その他	1	11	1	0	5	0	1	0	3	1	1	3	31

礼と酒宴をするもの、(キ)中高年の男性当番役員と女性の任意手伝いが年1・2回祭礼と会食をするもの、(ク)中高年の女性が当番又は奉仕で毎日又は月数回供物や供花するもの、(ケ)中高年の男女が定期的参拝又は随時供花で自主的に関わるもの、(コ)中高年男性役員とその他大勢の老若男女の自主参加で年1・2回だんじりや弓・相撲・盆踊りなどを行うもの、の5つにタイプ分けし、祭祀空間の呼称ごとにまとめた(表-4)。これより祭祀に関わる者の動機を整理しその意味付けを行った。

(カ)は男性役員だけが決められた特定の日時のみに関することから、義務的で「責任感」があると位置づけた。愛宕・荒神・山ノ神・地ノ神・社日などが該当した。荒神の一部では固く女人禁制を守り、祭祀空間への立ち入りに制限があるところもあった。(キ)はもともとは大勢の参加があったが、男性役員が残留する形で参加者が減少した例が多いことが聞き取り調査から確かめられ、最も過疎の影響を受け「関わる動機が希薄化」しているものと位置づけた。金比羅・えびす・明神や他の様々な神社が該当した。(ク)は女性が日常的に気軽に関することから、「愛着」があると位置づけた。不動・地蔵・観音・阿弥陀・薬師が該当した。(ケ)は信仰心にもとづいた自由な関わり方であることから「慣習的」と位置づけた。不動・地蔵・明神・八幡などが該当した。(コ)は特定の祭りの大規模なハレの演出の娯楽性によって「関わる動機が継承されている」ものと位置づけた。八幡や一部の神社が該当した。

5. 祭祀への参加範囲

表-5 祭祀への参加範囲

参加範囲	社日 神日	天王	弁天	山ノ 神	虎神	愛宕	不動	阿彌陀	明神	金比羅	えびす	八幡	その他	計									
村全体	17	2	6	3	5	10	9	3	6	2	14	7	3	4	1	2	2	0	0	5	106		
地理的 まとまり	0	0	0	1	2	19	2	6	6	2	5	2	3	3	5	8	11	3	4	0	0	8	90
村全体 +他村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	9	
その他	4	0	0	0	1	7	1	1	1	0	0	0	0	0	4	3	6	1	1	0	0	3	33
全体	21	2	6	4	8	36	12	10	14	4	19	9	6	6	13	12	19	8	7	4	4	16	238

どの範囲の住民が祭祀へ参加するかについては、郷や字による村内の地理的なまとまりを単位とする場合が多いことが聞き取りから確認された。特に山間部村落では、地理的なまとまりが村落空間を把握する上で重要であった。祭祀への参加範囲は、村全体、郷や字による村内の地理的なまとまり、村全体+他の村の3つに分類でき(表-5)、住民が祭祀空間に抱く意識を分析し、意味付けをした。

村全体を参加範囲とするものは「村落共同意識」の上に成り立つと位置づけた。社日・天王・地ノ神・愛宕・明神や様々な神社などが該当した。地理的なまとまりを参加範囲とするものは、行き来のしやすい「近所の連帯意識」の上に成り立つと位置づけた。地蔵・薬師をはじめ、えびす・観音・不動などが該当した。村全体と他の村を参加範囲とするものは「開かれた交流意識」の上に成り立つと位置づけた。八幡と御旅所が該当した。荒神と山ノ神については、村全体が参加範囲であるか、村内の地理的なまとまりごとに参加範囲があり、存在が村全体をカバーしているかどうかであるという特徴があった。全体的に、居住域にまとまりのある村落では全ての祭祀空間を共有し、地理的に分割された村では村全体の祭祀空間と小さなまとまりごとの祭祀空間とを持っていることが明らかとなった。

6. 総合的な考察

—場所性と祭祀に関わる地域住民との関係性—

ここまで、祭祀空間の構成要素や立地特性などの場所性と、地域住民の祭祀空間への関わり方やその参加範囲などの人々との関係性を分析し、その特徴を()として位置づけてきた。

これらの特徴をもとに、祭祀空間の場所性と祭

図-2 祭祀空間の場所性

祀空間に関わる地域住民との関係性を探ることとした。まず構成要素から見た特徴と祭祀空間域の形態から立地特性を分析し、祭祀空間の場所性をとらえた(図-2)。

aには荒神, bには愛宕や〜神社, cには明神・権原・八幡や〜神社, dには観音・薬師・〜神社, eには金比羅・稲荷・えびす・弁天, fには地藏, gには社日・山ノ神, そしてhには不動が該当した。これにより日常生活域とは強く区別される神聖な場所(a)から, 日常的でアピール性のある場所(f)まで, 個々の祭祀空間は村落の中でそれぞれの性格を持った場所として存在していることが明らかとなった。このa〜hで得られた祭祀空間の場所性ごとに地域住民がどのように関わっているかをとらえるため, 祭祀への住民の関わり方とその参加範囲を分析した(図-3)。

図-3 祭祀に関わる地域住民の意識

すると場所性で分類したa〜fのグループそれぞれに対応するようにして, 地域住民の祭祀への関わり方には特徴があることが明らかとなった。立地にばらつきが見られたgはaやbと同じ関わり方, hはfと同じ関わり方に吸収された。

図-4 村落における祭祀空間の配置モデル

祀空間の場所と住民の関係を,

村落モデル図(図-4)で確認しながらまとめた。

a: 神聖な村のランドマークとして農村景観にリズムを与えており, 地形的に日常生活域との区別が明らかである。男性役員が村を代表して特定の日にだけ責任を持って関わる。女人禁制の所もあり, 関わる住民に制限がある。

b: 非日常的で, 自然環境や配置そのものに意味がある。男性役員が村共有のものとして責任を持って関わる。

c: 日常生活域とは少し区別され安定感がある。一つの村単位や複数の村単位で老若男女が多数参加する娯楽性のある祭りが行われ, 参加動機が自然に継承されているものと, 過疎化で参加動機が希薄化しているものの両極に分かれる。普段の定期的参拝の慣習が多くで見られる。

d: 日常生活域と少し区別されるが身近で親しみやすいものであり, 女性が日常的に愛着を持って関わる。近所同士の連帯を形成している親密なつきあいの拠点である。

e: 近所で共有する身近で日常的な存在だが, 過疎化で祭祀が成り立たず, あるいは参加動機が希薄化している。

f: 非常に日常的でアピール性がある。近所で自主的に関わるのが慣習となっており, 近所連帯意識が強い。

g: 立地はばらついているが自然環境や集落での配置に意味がある。村全体のものとして男性役員が関わる。

h: 非日常的なものから日常的なものまで立地はばらついているがアピール性がある。近所で自主的に関わるのが慣習となっており, 近所連帯意識が強い。

ただし山や水田が少ない「浜」地域ではaやb

タイプの祭祀空間はほとんどなく、偏りがあった。

以上、祭祀空間域の面積が大きく石塔や石祠などから構成されるaとbでは、男性役員が村を代表して大切な任務を遂行するように特定の日にだけ関わっていること、祭祀空間域の面積が小さいか又は祭祀空間域がないdとfでは供花が共通して見られ、女性が愛着を持って日常的に当番制や自主的に関わることで近所の連帯意識を高めていること、という大きな傾向があることが明らかになった。祭祀空間それぞれの場所性にもとづいて住民の関わり方に法則性があることが検証された。

IV おわりに

本来祭祀空間は信仰をその出発点としている。しかし、本研究をまとめるにあたって、祭祀空間の場所性や地域住民の関わり方は、個々の祭祀の由来もあるが、一方で法則性を持つことも確認された。祭祀空間が地域の景観形成や身近な環境管理を通じた地域的連携に大きな役割を果たしていることも検証された。地域固有の記憶を内包した歴史的・文化的景観として、また地域住民の精神的連携を育み共有する空間として、祭祀空間は貴重な共有財産である。これらを今後も生きた空間として存続しうる方策を考えることが必要である。

まず大切なことは、宗教性のみにとどまらず、祭祀空間の持つ歴史性・象徴性・物語性を再認識していくことである。地域住民が祭祀空間を再発見すること、祭祀空間の景観的な存続意義を再認識し、それらとの関係を通じた地域への愛情、場所への愛着を育んでいくことが第一歩である。

次に、このかけがえのない地域財産を「場」として保全していくことである。しかし、特に北淡町の場合などは、震災によって破壊された建造物などの改築費用を村落内で負担することが困難なところもあり、祭祀空間との関わりが途絶えつつある例も複数確認された。また管理のための人手が不足していることも深刻であった。祭祀空間を

生き生きと保全していくことが地域住民の努力だけでは困難になってきており、農村景観保全のためのデカップリングなど新たな農村振興政策や、中山間地域支援体制も必要なのではないかと考える。そうすることは、文化的な面から農業の多面的機能を支えることにもなる。

さらに、都市部に住む者も、中山間地域の多様な祭祀空間を体験できるようなシステムづくりが大切である。都市での生活では、人の営みが自然や地形風土と深く関係していることを感じる機会に乏しい。グリーンツーリズムなどによる来訪者や新たな移住者に対して、深く自然に向き合うことのできる場所として、あるいは私たちの先祖が自然の中で見出してきた美意識や空間構成などを感じ取ることのできる場所として、祭祀空間は貴重な財産である。それらを体験することにより、多自然居住地域の景観維持や地域的連携が村落のみの問題としてあるのではなく、都市市民も含めた共通の課題であるとの認識と戦略が生まれてくるのではないかな。

<引用文献>

- 1) 加藤仁美 (1999) 「集落における共同性の社会・空間構造と環境管理」 日本建築学会計画系論文集 518, PP173-180.
- 2) 竹内泰・布野修司 (1999) 「京都における地蔵の配置に関する考察」 日本建築学会計画系論文集 520, PP263-270.
- 3) 関銘崇・田中慎彦・布野修司 (1999) 「新店市広興の集落組織の構成と寺廟の祭祀圏」 日本建築学会計画系論文集 521, PP175-181.
- 4) 関銘崇・布野修司 (2000) 「寺廟・神壇の組織形態と都市コミュニティ：台北市東門地区を事例として」 日本建築学会計画系論文集, PP218-225.
- 5) 姜恵京・西村一郎・韓三建 (1999) 「韓国蔚山地域の農村集落における祭祀空間の構成に関する研究」 日本建築学会計画系論文集 524, PP191-198.
- 6) 森田三郎 (1990) 『祭りの文化人類学』 世界思想社, 京都, PP127-17

Summary

There are more than 230 religion-related places for rituals in Hokudan, Awaji. The purpose of this study is to make clear the relationship between people and these places in rural village community. This study is based on the investigation about distribution in each village, symbolic elements, characteristic of locations, and religious service area of these places. It was verified that there are some rules between the characteristic of these places and relation with people.